

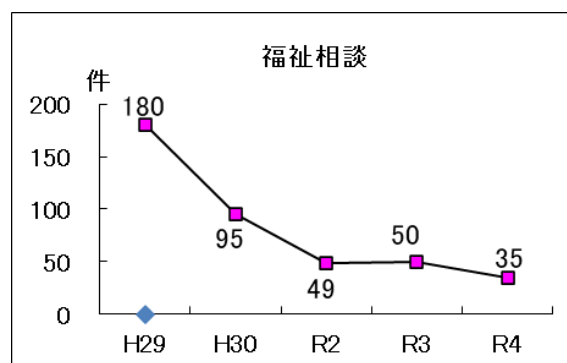
## 第3 高齢者福祉

### 1 相談事業

| 番号  | 事業名  | 財源 |    |    |    |
|-----|------|----|----|----|----|
|     |      | 自主 | 補助 | 委託 | 事業 |
| (1) | 福祉相談 |    |    | 市  |    |

#### 結果の概要

- 相談者の訴えや不安、抱えている問題を傾聴し情報提供や各関係機関へつないだ。
- 地域福祉推進課全体で相談を受け、内容によっては、複数職員で問題を共有し対応した。



#### 実績等

- 相談実施日数 244 日、相談件数 35 件

#### <分野別>

| サービス別          | 利用者 |     |      |     | 合計 |
|----------------|-----|-----|------|-----|----|
|                | 高齢者 | 障害者 | 低所得者 | その他 |    |
| 総合福祉センター受託サービス | 3   | 0   | 0    | 1   | 4  |
| 社協サービス         | 1   | 5   | 0    | 0   | 6  |
| その他の福祉サービス     | 8   | 2   | 0    | 1   | 11 |
| 他の機関のサービス      | 3   | 1   | 2    | 8   | 14 |
| 合計             | 15  | 8   | 2    | 10  | 35 |

#### <内容別>

| 相談内容          | 利用者 |     |      |     | 合計 |
|---------------|-----|-----|------|-----|----|
|               | 高齢者 | 障害者 | 低所得者 | その他 |    |
| サービスの利用に関する相談 | 8   | 4   | 0    | 1   | 13 |
| 介護に関する相談      | 0   | 0   | 0    | 0   | 0  |
| 福祉機器に関する相談    | 0   | 0   | 0    | 0   | 0  |
| 保健・医療に関する相談   | 1   | 0   | 0    | 1   | 2  |
| 経済的な相談        | 0   | 0   | 0    | 2   | 2  |
| 住宅に関する相談      | 0   | 1   | 0    | 0   | 1  |
| 他の相談          | 6   | 3   | 2    | 6   | 17 |
| 合計            | 15  | 8   | 2    | 10  | 35 |

#### 分析・課題

- 相談件数は令和3年度よりやや下回るが、直接窓口に来所されての相談が増加傾向にある。
- 「その他」の「他の相談」は、子ども家庭課貸付の返済についてや、申請書類記入の手伝いご希望、社協の貸付要件に該当しない資金についての相談などである。
- 相談者は、既に関係機関（地域包括支援センターや障害者支援機関、福祉事務所等）につながりがある。

る方も多いが、そこでは満たされない思いや不安を受けとめる相談窓口として有効に機能した。また、長期化するコロナ禍で孤独感、不安感が増長している方も多く、傾聴する時間も長期化傾向にある。

## 2 通所事業

| 番号  | 事業名                   | 財源 |    |    |    |
|-----|-----------------------|----|----|----|----|
|     |                       | 自主 | 補助 | 委託 | 事業 |
| (1) | 通所介護・国基準通所型サービス（アイビー） |    |    | 市  | ○  |

### 結果の概要

○介護保険事業として、通所介護事業、介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）を実施し、利用者の心身の機能維持や向上及び社会的孤立感の解消並びに介護者の身体・精神的負担の軽減を図った。

<利用人数等>

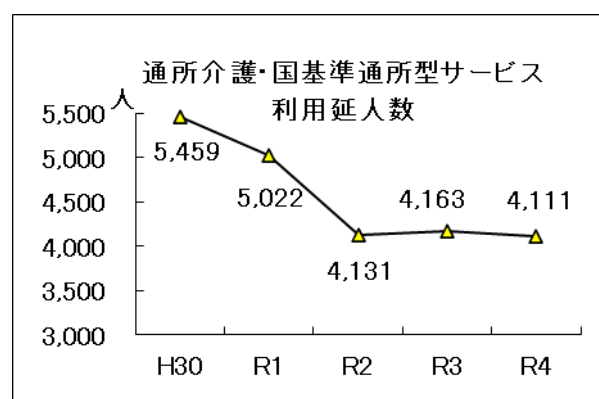
○利用人数について（1日の利用定員 35人）

|                 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-----------------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 実施日数            | 244    | 240   | 243   | 242   | 243   |
| 利用延人数<br>（通所介護） | 4,835  | 4,382 | 3,620 | 3,631 | 3,525 |
| 利用延人数<br>（国基準）  | 624    | 640   | 511   | 532   | 586   |
| 利用延人数<br>（合計）   | 5,459  | 5,022 | 4,131 | 4,163 | 4,111 |
| 稼働率（%）          | 63.9   | 59.8  | 48    | 49.1  | 48.3  |

○契約の状況（カッコ内は令和3年度）

|        |         |
|--------|---------|
| 新規契約者数 | 5人（5人）  |
| 契約終了者数 | 7人（10人） |

※契約終了者の内訳は入所・入院4人、その他3人。



○利用者の年齢構成 令和5年3月末現在。（カッコ内は令和3年度）

|         |                |          |
|---------|----------------|----------|
| 第二号被保険者 | 40歳から64歳       | 15人（15人） |
| 第一号被保険者 | 前期高齢者（65歳～74歳） | 22人（23人） |
|         | 後期高齢者（75歳以上）   | 24人（25人） |
| 合計      |                | 61人（63人） |

○利用者の介護度 令和5年3月末現在（カッコ内は令和3年度）

| 介護度 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1   | 要介護2   | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 |
|-----|------|------|--------|--------|------|------|------|
| 人数  | 6（4） | 6（7） | 10（11） | 21（20） | 6（8） | 9（9） | 3（4） |

<サービス内容>

- 利用者の希望を確認しつつ、機能訓練及び趣味活動の提供を目的として、ネット手芸や刺繍、革細工等、個別に活動を提供した。
- 利用者同士のコミュニケーションを目的とした全体活動（レクリエーション）を提供した。
- 専門療法士による訓練

|       |   |   |   |   |   |
|-------|---|---|---|---|---|
| 理学療法士 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
| 作業療法士 |   |   |   | 木 |   |
| 言語聴覚士 | 月 |   | 水 |   | 金 |

職員間での情報共有を強化するため、職員の打ち合わせの時間を変更した。利用者のニーズや状態に応じたプログラムの提供に努めた。

作業療法士による訓練は、月に1回、新たにグループ訓練を取り入れた。利用者の状態に応じ、4グループに分け、それぞれのグループごとに訓練内容を作成した。作業療法士が不在時でも介護員、看護師が訓練メニューを実施することが可能となり、訓練の充実につながった。

金曜日の言語聴覚士による訓練は、小グループを作り実施した。少人数であるため、参加しやすいとの声が聞かれた。

- 7月は七夕飾り、短冊の作成、11月には車窓からの紅葉見学、3月には車窓からの桜見学を実施。季節を感じられると利用者からは好評だった。
- 市民の音楽ボランティア MECP の協力により、年間5回のクラシックコンサートを開催し、利用者が身近な地域で音楽に触れる機会を提供した。
- 染物の活動を夏以降、各曜日に実施した。様々な色を用意し、複数日に通所されている方も楽しめるように工夫したほか、利用者があせらずに参加できるよう工程に応じて複数回に分けて実施する等、余裕を持ったスケジュールで実施した。室内で乾かしながら各利用者の作品を展示し、利用者同士がコミュニケーションを図るきっかけとなった。
- 月1回、避難訓練を実施した。スムーズに避難できており、利用者の中で定着している様子が伺えた。
- 食事形態の変更及び加工、食事の自助具は利用者の希望・状態を確認したうえで適宜変更を行った。箸で食事をしたいと希望されている利用者に寄り添い、介助箸からスタートし、プラスチックの箸、割り箸を使用しての食事ができるようになった。
- 食事や水分の飲み込みが難しい利用者に対して、言語聴覚士が嚥下評価を実施した。家族に報告するとともに、職員間でも共有を図り、トロミをつけた食事や水分を提供した。利用者の状態を適宜確認し、状態に応じた食事、水分提供に努めた。
- 服薬については、利用者、家族の要望や利用者の状態に応じて柔軟に対応した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月25日、27日、28日、8月、9月の期間においては調理ボランティアによる手作り昼食の提供を中止し宅配の弁当による昼食提供をおこなった。活動日には感染対策を講じながら、調理ボランティアによる手作り昼食の提供を行った。（調布市いきいきクラブ調理運営協議会へ委託） 第1部の83・84頁参照
- 食事の前後、口腔内の清潔を保つことと嚥下を促進するために、必要な利用者に口腔ケアを行った。
- 高次脳機能障害支援促進事業の専門医によるスーパーバイズに参加した。新たな気づきや学びを深めることができた。

<その他>

- 介護保険収入

|       |             |
|-------|-------------|
| 年度    | 介護保険料収入     |
| 令和4年度 | 28,725,981円 |

|        |             |
|--------|-------------|
| 令和3年度  | 38,633,392円 |
| 令和2年度  | 32,597,579円 |
| 令和元年度  | 43,598,940円 |
| 平成30年度 | 50,177,322円 |

## ○職員研修の実施

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 4月  | 来館者嘔吐対応振り返り                |
| 5月  | プライバシー保護に関する研修①            |
| 6月  | プライバシー保護に関する研修②            |
| 7月  | アンケート集計結果について意見交換          |
| 8月  | 制作活動の試作                    |
| 9月  | 総合福祉センターの機能・設備に関する意見集約について |
| 10月 | てんかん発作時の対応について             |
| 11月 | 虐待防止研修                     |
| 12月 | コロナ禍における倫理綱領に基づく利用者支援について  |
| 1月  | 感染症予防について                  |
| 2月  | 次年度事業計画について意見交換            |
| 3月  | 認知症に関する研修                  |

外部講師による研修（1月・3月）を実施した。グループディスカッションの場面を多く作り実施した。

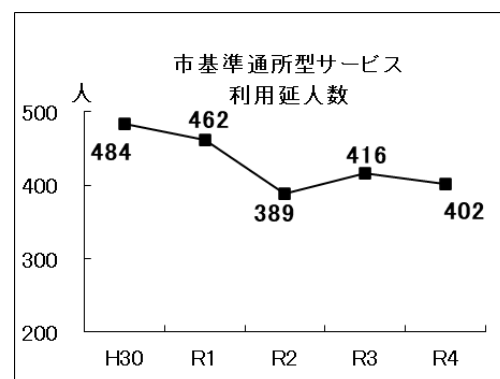
分析・課題

- 調布市内の40歳からの若年層も抵抗感なく利用でき、理学療法士や言語聴覚士等専門療法士の訓練が受けられるデイサービスとしてアイビーが認知されてきている。その特性を引き続き周知するとともに、個々の活動内容や訓練内容についても整備、見直ししていくことが必要である。
- 後期高齢者に該当する利用者も多くおり、通所時の会話等から解決が困難な問題を抱えているケースが表出されていることから、支援について多角的な視点が必要であり、該当する機関へつなぐ支援も行っていく。
- 体調不良による入院や再発、急変により逝去された利用者も多い年となった。通所時の体調確認のほか、家族や関係機関との連絡も密に図っていく。
- 新規利用相談については、言語訓練を希望としているケースが多く占めているが、アイビーでは個別制作活動の時間も作業訓練の側面を担っていることを伝えるため、新たなパンフレットの作成、ホームページの活用等、広報の強化を図っていく。
- 利用者や家族等とのコミュニケーションや職員間の情報共有・連携を深め、情報収集、アセスメント、課題の抽出・明確化、目標設定、通所介護等計画書兼機能訓練（運動機能向上）計画の立案、介護の実施、評価のサイクルを展開することで利用者の生活上のニーズの改善につなげていく。
- 令和3年度実施の利用者満足度調査の結果を活動に反映していく。また、職員間の意見交換や情報共有がより活発となるよう実施方法を検討する。
- サービスの質の安定、向上のため、研修内容の検討や有識者から助言を受ける機会を確保していく。

| 番号  | 事業名                            | 財源 |    |    |    |
|-----|--------------------------------|----|----|----|----|
|     |                                | 自主 | 補助 | 委託 | 事業 |
| (2) | 介護予防・日常生活支援総合事業市基準通所型サービス「よつば」 |    |    | 市  |    |

### 結果の概要

- 介護予防・日常生活支援総合事業における、調布市独自の基準による通所型サービスとして実施して6年目、健康の維持増進、心身機能の低下予防を目的に実施した。
- 運動機能向上を目的とした体操や、脳トレ、手先を使った制作活動、講師による陶芸・音楽、アロマオイルを使用したリラクゼーションなどの活動を継続して提供した。
- 利用者からの希望を伺い、新たに制作でちぎり絵に取り組んだほか、10の筋力トレーニングを体操のメニューに取り入れた。
- コロナ禍でも簡単に楽しめるようなレクリエーションとして、アクリル板と空のティッシュケースを使ったエアホッケーゲームを考え、実施した。席に座ったままできるレクリエーションで、各利用者が楽しんでいました。
- 車で稲城・府中メモリアルパーク、大國魂神社へ外出し、季節や自然を味わう機会を持った。例年よりも外出の機会が多くなり、利用者からも好評だった。
- 講師の都合で休みとなった体操の講師活動を絵手紙の活動に変更し、講師を招いて2回（月曜日）実施した。
- 身体機能検査を年2回実施した。体操講師に助言をいただき、検査項目の見直しを行い、スクワットを廃止し、握力を取り入れた。
- 個々の利用者と相談員との面談を2回実施した。また利用者のニーズや課題を地域包括支援センターと共有を図った。
- 欠席が続く利用者へ電話やはがきなどで連絡を行った。



### 実績等

- 1日の定員は15人。月曜日、水曜日および金曜日の週3日開設している。
- 令和4年度末の利用者人員は月曜日3人、水曜日5人、金曜日3人で、合計9人となっている。（うち2人が週2回利用。）
- 新規契約者は0人。契約終了者は1人（体調悪化のため）。

|    | 実施日数 | 利用延定員  | 利用延人数 | 利用率   |
|----|------|--------|-------|-------|
| 年間 | 147日 | 2,205人 | 402人  | 18.2% |

### 分析・課題

- 令和5年度も、利用者からの希望を伺い、新たな制作活動に挑戦するなど、利用者の意見を大切に活動内容の充実を図っていく。
- 総合福祉センター1階の窓に手作りの季節ごとのポスターを掲示した。好評を得ており、令和5年度も継続していく。また、市報やふくしの窓による広報も行うとともに、地域包括支援センターと連携をし、利用者数の増加を図っていききたい。
- 利用者と相談員との面談を継続し、意見・要望を伺い、活動内容やスタッフの対応の質を高めていく。

| 番号  | 事業名         | 財源 |    |    |    |
|-----|-------------|----|----|----|----|
|     |             | 自主 | 補助 | 委託 | 事業 |
| (3) | 知って活かそう介護予防 |    |    | 市  |    |

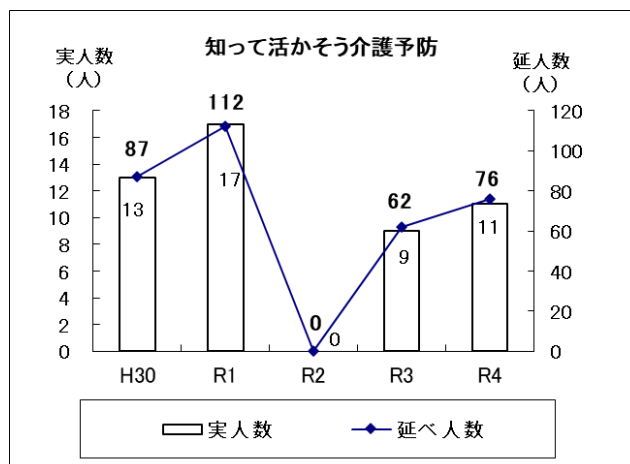
### 結果の概要

○講師の指導による体操を通じて、身体機能の維持や向上を図るとともに、日々の生活にも役立ててもらえるよう、栄養士による栄養の話、看護師による口腔ケアの話や認知症の話を行った。また、参加者同士のグループ化につながるよう、交流しやすい雰囲気作りに努め、交流の促進を図った。

○毎回、実践記録カードを基に自宅での課題を実践し、運動の習慣化を促進した。

○期間開始時と終了時に身体機能測定を行い、目安となる数値を含む解説と共に結果を本人に報告した。

○11人が参加され、うち5人は8回全て出席された。全体の出席率は86%だった。



### 実績等

| 実施日              | 実施回数 | 実人数 | 延べ人数 | 内容                 |
|------------------|------|-----|------|--------------------|
| 8月17日～10月26日の水曜日 | 8回   | 11人 | 76人  | 講師の指導による運動・認知症予防講座 |

### 分析・課題

○体調面や席の配慮が必要な利用者については高齢者支援室と連携を図りながら対応した。

○事前・事後の身体機能測定結果の検証や参加者自身での自己評価を行うことにより、身体バランスや持久力等、身体機能の向上や意欲の増進につながった。

○講座終了後も介護予防への取り組みの意識を継続し、ステップアップ教室へつなぐことができた。

○参加者同士の交流がよく図られていた。講座終了後もステップアップ教室などを通じて交流を続けられ、グループ化の下地作りができた。

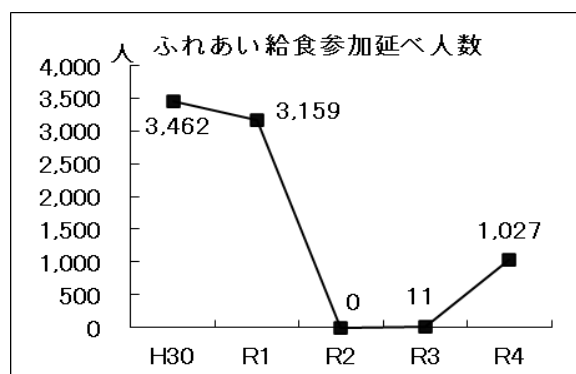
| 番号  | 事業名    | 財源 |    |    |    |
|-----|--------|----|----|----|----|
|     |        | 自主 | 補助 | 委託 | 事業 |
| (4) | ふれあい給食 |    |    | 市  |    |

### 結果の概要

○令和4年5月から月2回、午前中のみ活動を再開することができたが、給食の提供には至らなかった。

○活動再開にあたっては換気、消毒、検温、マスク着用など、感染対策を行った。協力員に抗原検査キットを配布した（使用は任意）。

○大きな声が出る活動や手がふれ合う活動を避け、



活動中の飲料水はペットボトルを提供した。

- 給食を提供できないかわりに軽食を準備し、ふれあい給食室での黙食を数回実施したが、感染状況拡大に伴い、その後、軽食も持ち帰りに変更した。
- 調布市との協議のもと、令和4年度は一時的に通所介護サービスとの併用を特例で認め、併用した利用者が複数名いた。
- 利用者の心身の状況の低下は著しく、負荷のかからない活動を試みた。
- 利用者数の減少があり、利用者募集を開始した学校もあった。
- 協力員に対して、不定期ながら定例会を行った。
- 学校によっては再開した地域の祭りへの作品展示での参加や卒業する児童への手作りプレゼント作成など、間接的に交流を行った。

### 実績等

|            | 実施回数<br>(回) | 年間延<br>利用者数<br>(人) | 登録<br>協力員数<br>(人) | 年間延<br>協力員数<br>(人) |
|------------|-------------|--------------------|-------------------|--------------------|
| 染地<br>(火)  | 22          | 124                | 7                 | 84                 |
| (水)        | 22          | 186                | 8                 | 77                 |
| 緑ヶ丘<br>(水) | 22          | 113                | 12                | 101                |
| (金)        | 22          | 104                |                   | 66                 |
| 石原<br>(木)  | 22          | 195                | 10                | 74                 |
| (金)        | 22          | 217                |                   | 82                 |
| 北ノ台<br>(木) | 21          | 88                 | 8                 | 85                 |
| 合計         | 153         | 1027               | 45                | 569                |

### 分析・課題

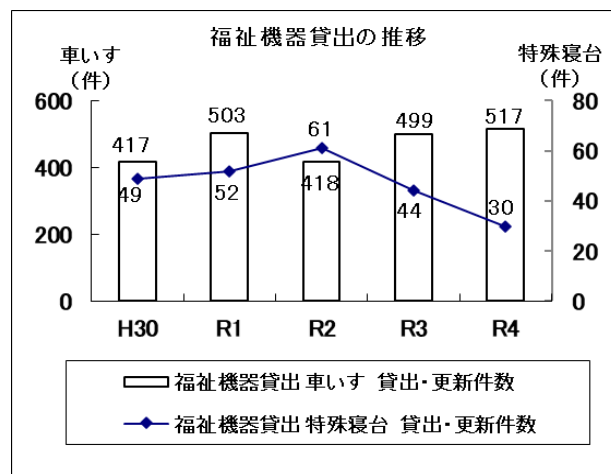
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、外出や会話の機会が減ったことによる健康面や精神面への支援が課題となっている。
- 心身状況の低下により利用継続が困難となったり、他の介護サービスへ移行されたりする利用者が増えた。
- 既存の利用者についてもこれまでより見守り・手助けが必要な場面が増えている。安心・安全な事業運営のためにも、利用者の要件見直し等を検討する必要があると思われる。
- 新規利用者獲得に向けた広報活動の強化は急務である。

### 3 福祉機器の貸出し

| 番号  | 事業名      | 財源 |    |    |    |
|-----|----------|----|----|----|----|
|     |          | 自主 | 補助 | 委託 | 事業 |
| (1) | 福祉機器の貸出し |    | 市  |    | ○  |

#### 結果の概要

- 高齢者や障がい者等、体の不自由な方を対象に車いす、特殊寝台を貸し出し、本人及び介護者の利便を図った。
- これまでに1度も車いすを使用していない方に対しては、安全に利用していただくために貸出時の説明をより丁寧に分かりやすく行った。
- 車いすの新規申請者が1月以降増加し、不足が懸念されたため、車いすの購入数を増やして対応した。



- 定期的に貸出し状況を点検し、更新手続きが滞っている方には個別に連絡を取り、状況を確認した。
- 車いす修理ボランティアによる修理・点検は、コロナ禍のためボランティアの安全を考慮し年6回の予定を11月と3月の2回実施。こころの健康支援センターのグループ活動による車いす修理も1月のみ実施した。

#### 実績等

| 貸出機器    | 車いす    | 特殊寝台  |
|---------|--------|-------|
| 貸出・更新件数 | 延べ517件 | 延べ30件 |
| 利用者数    | 356人   | 10人   |

#### 分析・課題

- 車いす新規申請者や長期利用者が増えており、今年度は8台購入したが、今後の需要増を考慮し、引き続き新車購入および寄付の呼びかけにより、車いすの安定確保に努めたい。
- 車いす新規申請者の増加については、高齢者の転倒骨折等で急に歩行困難になった申請者が目立った。
- 長期滞納者については、何らかの問題を抱えている場合が多く、引き続き地域福祉コーディネーターや地域包括支援センターとも連携しながら支援に結び付けたい。

### 4 地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）

| 番号  | 事業名                         | 決算額(円) |    |    |    |
|-----|-----------------------------|--------|----|----|----|
|     |                             | 自主     | 補助 | 委託 | 事業 |
| (1) | 地域支え合い推進員<br>(生活支援コーディネーター) |        |    | 市  |    |

#### 結果の概要

- 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心・安全に生活ができる地域を実現するため、地域包括ケアシステムにおける「生活支援」及び「介護予防」の推進を目指した。



- 地域支え合い推進員を6名に増員したことにより、地域活動への訪問支援が充実し、高齢者等のニーズをより多く把握することが可能となった。これにより、福祉圏域にとどまらず、全域に共通したニーズ充足を行うことを目的に「スマホボランティア養成講座」、「地域福祉フォーラム」、「ひだまりサロン交流会」といった全域的な活動を開催し、新たな活動者層への働きかけを行うことができた。
- 第1層地域支え合い推進員（調布市 高齢者支援室）が主催するセカンドライフ応援キャンペーンへ参加し、同取組の普及啓発活動に協力した。
- ひだまりサロン事業をはじめ、各種地域活動の再開に際し、活動内容や時間、実施方法、といった相談をきっかけに地域活動や他機関とも積極的に情報交換を行い、連携をより強固にした。
- 東京都社会福祉協議会（以下都社協）などが行う研修に主に参加するとともに、室田信一氏（東京都立大学准教授）によるスーパービジョン（指導・助言等）を受けて、職員の資質向上に努めた。また、都社協が実施する、第2層生活支援コーディネーターの研修では地域住民とともに講師を務め、活動報告を行った。
- 第1層地域支え合い推進員から依頼を受け、調布市、国立大学法人電気通信大学、アフラック生命保険株式会社が実施する※CDC 運動へ大きく協力した。

※CDC（調布・デジタル・長寿）運動…高齢者のデジタルデバインド解消に取り組むとともに、リアルとオンラインを組み合わせた健康増進プログラム（運動、食事、認知に関する健康教室等）を通じて強いつながりを創ることにより、健康寿命の延伸につなげるとともに、主観的幸福度の向上を目指す活動。

| 福祉圏域<br>(小学校区) | 主な担当地域  |
|----------------|---|
| 緑ヶ丘・滝坂         | 仙川町1～3丁目、緑ヶ丘1丁目・2丁目、<br>菊野台1丁目の一部、<br>東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部、<br>西つつじヶ丘1～4丁目の一部、<br>若葉町1丁目の一部         |
| 若葉・調和          | 東つつじヶ丘3丁目の一部、西つつじヶ丘3・4丁目の一部<br>入間町1～3丁目<br>若葉町1丁目の一部・2丁目・3丁目<br>国領8丁目の一部、菊野台1丁目の一部・2丁目・3丁目        |
| 北ノ台・深大寺        | 深大寺北町1～7丁目、佐須町1丁目の一部、<br>深大寺元町2丁目の一部・3～5丁目、<br>深大寺東町1丁目・2丁目の一部・5～8丁目、<br>深大寺南町1～3丁目の一部・4丁目・5丁目の一部 |
| 第二・八雲台・国領      | 佐須町3丁目の一部、<br>調布ヶ丘2丁目・3丁目の一部<br>八雲台1丁目・2丁目<br>国領町1～5丁目・8丁目の一部<br>布田2丁目・3丁目                        |
| 染地・杉森・布田       | 国領町6～7丁目、<br>染地1～3丁目、<br>布田5～6丁目、   |

|           |  |
|-----------|--|
|           | 多摩川 6～7 丁目   |
| 第三・石原・飛田給 | 飛田給 1～3 丁目、上石原 1～3 丁目、<br>富士見町 1 丁目・2 丁目の一部・3～4 丁目、<br>下石原 1～3 丁目の一部、<br>野水 1 丁目・2 丁目、西町 |

## 実績等

### <共通>

- 令和4年度に地域で生活する高齢者の生活に寄り添った活動の啓発・意識醸成として、第2層協議体と連動し開催したちょうふ地域福祉フォーラムの内容をSNS上に公開し、視聴回数は800件以上となった。
- 休止されていたひだまりサロンをはじめとする、「地域の通いの場」の再開支援を各圏域で行うとともに、各圏域で聞き取った活動再開に伴う各活動の工夫やアイデアを共有する機会として、既存のひだまりサロン交流会と協働による講座を実施し、約100名が参加した。
- 地域包括支援センターと連携し、10の筋力トレーニングの普及・通いの場づくりといった介護予防の取組を行った。また、第2層地域支え合い推進員（以下支え合い推進員）の未配置圏域においては、周辺地域の支え合い推進員が地域包括支援センターや地域福祉コーディネーター、民生児童委員と協働し、活動の立ち上げを行った。
- 各圏域で共通していた「スマートフォンの使い方を気軽に聞きたい」というニーズをもとに、企業と連携し、スマホボランティア養成講座を3回連続講座として実施した。25名の修了者とともに各圏域で行う既存の活動や新たな活動の立ち上げを行った。
- 地域内で居場所の立ち上げニーズを持つ、地域住民とともに他市の先行事例の見学を企画した。参加者の中から、2か所の居場所が開始された。

### ①行動区分（件）

| 福祉圏域<br>(小学校区) | 訪問    | 来所  | 電話    | メール   | その他 | 合計    |
|----------------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
| 滝坂・緑ヶ丘         | 313   | 84  | 151   | 139   | 123 | 810   |
| 若葉・調和          | 429   | 106 | 223   | 81    | 84  | 923   |
| 北ノ台・深大寺        | 263   | 95  | 84    | 323   | 135 | 900   |
| 第二・八雲台・国領      | 182   | 87  | 111   | 38    | 102 | 520   |
| 染地・杉森・布田       | 379   | 106 | 246   | 386   | 157 | 1,274 |
| 第三・石原・飛田給      | 342   | 100 | 210   | 70    | 97  | 819   |
| 合計             | 1,908 | 578 | 1,025 | 1,037 | 698 | 5,246 |

### ②相手方区分（件）

| 福祉圏域<br>(小学校区) | 当事者 | 地域住民 | ボランティア<br>NPO | 行政<br>(福祉) | 行政<br>(福祉以外) |
|----------------|-----|------|---------------|------------|--------------|
| 滝坂・緑ヶ丘         | 4   | 385  | 52            | 46         | 9            |
| 若葉・調和          | 31  | 342  | 57            | 53         | 21           |
| 北ノ台・深大寺        | 13  | 274  | 23            | 102        | 14           |
| 第二・八雲台・国領      | 15  | 147  | 23            | 33         | 7            |

|           |    |       |     |     |     |
|-----------|----|-------|-----|-----|-----|
| 染地・杉森・布田  | 12 | 434   | 63  | 126 | 12  |
| 第三・石原・飛田給 | 4  | 319   | 114 | 44  | 42  |
| 合計        | 79 | 1,901 | 332 | 404 | 105 |

| 地域包括<br>支援センター | 民生児童<br>委員 | その他<br>専門機関 | 企業<br>商店 | 調布社協  | その他 | 合計    |
|----------------|------------|-------------|----------|-------|-----|-------|
| 96             | 11         | 129         | 58       | 207   | 23  | 1,020 |
| 73             | 28         | 112         | 70       | 165   | 43  | 995   |
| 51             | 37         | 149         | 216      | 178   | 18  | 1,075 |
| 39             | 34         | 73          | 51       | 121   | 59  | 602   |
| 59             | 16         | 164         | 251      | 271   | 29  | 1,437 |
| 59             | 39         | 101         | 59       | 209   | 49  | 1,039 |
| 377            | 165        | 728         | 705      | 1,151 | 221 | 6,168 |

圏域ごとの活動は、別途高齢者支援室と協働で作成する年次報告書に記載。

### 分析・課題

- 生活支援サービスを主とする地域活動を開始するにあたり、活動資金の確保が課題となった。このため、小規模な活動の立ち上げを促進するために助成金の創出を検討したい。
- 訪問件数をはじめ、感染症に配慮した形での地域活動が活発化している側面を感じている。こうした中で、ニーズへの即応性と記録などの事務処理の両立を行うため日報の改変に取り組みたい。